



□13

3539

1



門口 13
3539
1

辛丑五月吉日

一金之方

集義和書

右收名尸以平

あうざいーし



此集義和書は前日板紙

ありて世間より流布はせ

りて色紙板紙合有り有之

故今又洛陽之書肆小

行ひて古板紙を

きぬてありせしる人

分類 子部 319 (3)

49-1921

きつなり

集義和書卷第一

書簡之一

一 東書略博^{ガク}きめりて人よえん孝^{コウ}弟^{テイ}忠^{チュウ}信^{シン}仁^ニ道^{ドウ}と教^{コウ}ら
まとい人の中よ不孝^{フコウ}不忠^{フチュウ}なるもいひつぬ事^{コト}ありていや
返書^{ヘンショ}略^{リョク}武士^{ブシ}の武藝^{ブゲイ}よ進^{シン}しある人よ勝^{カチ}つ紙^{カミ}を
いへとも武功^{ブクウ}がさる者^{モノ}あり武藝^{ブゲイ}とて武功^{ブクウ}ある人必^{カナラ}得^エし
其法^{ソノホウ}をたえむの者^{モノ}よろしきことありき同^{ドウ}の道^{ドウ}と曰^{イハ}
およばし知^チ仁^ニ勇^{ユウ}の文武^{ブンブ}の徳^{トク}なり礼^{レイ}樂^{ガク}ら馬^{ウマ}書^{ショ}数^{スウ}の文武^{ブンブ}
の藝^{ゲイ}なり生^{ナマ}付^{ツキ}仁^ニ厚^{コウ}なり人^{ヒト}の文^{モン}をみせされ孝^{コウ}行^{コウ}忠^{チュウ}節^{セツ}なりあ
かり生^{ナマ}付^{ツキ}勇^{ユウ}強^{キヤウ}なり人^{ヒト}の武^ブをみせされ勝^{カチ}負^{マケ}の利^リもこ
のりなりとて文武^{ブンブ}の藝^{ゲイ}とて進^{シン}へと道理^{ドウリ}なげき古^コ
人^{ヒト}の其身^{コノミ}よ道^{ドウ}とて金^{キン}うぬへとも文^{モン}才^{サイ}よ愚^キ用^{ヨウ}なり

とていふも同きをせしめく文通と教へく人氏れよといと
これ風俗とてうらうらも力よ勇氣とてかこ人そ
と武勇とて意用なりとていふ馬とてうらあふく無
法と教へく人氏の筋骨とてくやうめ一統とてけいむ
國の武威とてくせんくあま主將の人とててけむく
蓋とてけむ道なりとていふくして若し忠節なりとて氣質
の美なり道とてくうら勇氣とて血氣の勇氣とてうら人
の徳と連なりとて長とてく人文武とてくいふ今のは
け人い文の末とてくあふ人よ連とて成とてくれとて
且天の物とてくうらとてく今れとてく是のりあ
る物とてく角なりとてくいふ人形なりとていふとてくあ
ふ人とて文才とて意用なりとていふ徳行なりとて徳なりとて
人い文才とてくしとてわり知聰明なりとて生付けたる行け
やとて行篤実なりとていふあふくうらわたり君みい其
若とてけいけいなりとて求なりとて小人のみとてくあ
らうとてその教とてあつたりとてく世よすりけ徳とな
る人多しとていふわく一稱とてく徳わく一好とてく
一書略今代世よき同なり人い天下國家を政道とて
つりなりとてあふくくあふくはとてく世いく國とて
世静なりとてくいふや

通書略のりあふき同なりと利欲とてくうらてけいむら
若のりなりとていふ通とてくあふく人い夫れ我なり
あふ今代世の豊なりとてく人いすけいけい世よきとてけ
知とてくくくくくく世同なり人い利欲なりとてけいむ

軍功ありて一実見事としてありてハ恩賞と云
 くとむらうぬとありてハ罪と云人の大功ありて
 終よわひ終るもいつくてもゆさるゑの氣を弁
 慶やと見らうけし國の人とれとりのあつては
 いひて通つと平泉寺とては徳倉とての討とて
 とるこは法師の身なり邪敵のあつては義経と
 りとて思ふあつてんとしてめこれの
 さらふの事ありとあらふとては思ふと具と
 ねよと目とて時刻とあるは老僧とて
 くは義経とては義経とては義経とては
 一終りては終りては終りては終りては
 とよ邪とては邪とては邪とては邪とては

さといのやうとてくわとては通
 ちとては通とては通とては通とては通
 及び平生義経の感とては感とては感
 ありとてはありとてはありとてはあり
 とては義経とては義経とては義経とては
 人の氣居とては節とては節とては節とては
 難とては難とては難とては難とては難
 とてはありとてはありとてはありとては
 かりとては地とては地とては地とては地
 吉野河とては地とては地とては地とては
 雪中とては竹とては竹とては竹とては竹
 うりとては竹とては竹とては竹とては竹

以東瀛のときううなるううは世にても久々漁翁中れ
 るへあうくく遠國のううとらうううう平家物語
 義經記もたうう実るうとるうう文法ううと虚言に
 ううあうのううはうう記うう書の中うう定てうう
 生付の人あうくくはううて暇目う考すう源頼光小
 松の内府重盛島山の重忠文武とあう士君の風わ
 か人うううう人うう重孝子の公法とさうせう唐うて
 もあうううの人ううあうううううううううう
 事不章ううううう宋明の書周の程子朱子孟子
 うの註解發明目うううう人の見ううううううう
 う十年うううううううう市井中ううううう
 てうのううとるうう十年とのおう武士の中あうう

あう人ううくく見くくうう後世うう人うう多うう
 来書略万物一休とらうの本國うう悉皆成件とらう
 同一道理の換ううう
 返書略万物一休とらう来地万物ううと虚の一氣ううう
 うものううううう仁者一草一本ううも時ううう理う
 うううううう飛潜動走ううのうう草一本あうう
 ううううううううううううううううううう
 うううううう一草のううううううううううう
 の靈うううううううううううううううううう
 中うううううう虚のうう一本の本うう天地のうう
 うのうううううう万物のうううううううううう

一、一のよりまゐるより大なる金神の本は用を教
有て朽ぬるよりなり花実をとりてさかりとて
一本を木の金神と倣へ一、地は植へて又木とあり
ぬくぬく可物と同一く大虚の一氣をまゐる人とい
くも大虚天地の金神と倣うる人なり形を
さかれば大虚の金神なり人なり人の性よの明德
号ありぬる人なり小神の天なりて天は人なり人
を一身と天地を合せくがとありふるなり呼吸の
息は運行り命と曆数醫術とありてあり天地
造化の神理主帥と元亨利貞とあり人なり有ては義礼智
とあり故よ本神に仁なり金神に義也大神に礼なり水神に
知なり天地人と三極とあり神に異なれども神に二貴同
なり

一、是太極の君五尺の方ありてよく其徳を明く
ちるひ一、天地位一、万物形なりとありて
物一、神といふ一、性といふ一、とありて万物人
の性一、とありて我は則ち虚なり天地四海と我
の中より人鬼幽明とありて一、堯舜の道は人倫と
明くありてあり故に他の道とありて人倫と我は
法の事なり我は不識
一、來書略聖人の書と説く来ふよりこれ一、是
其の則ち聖人のなりとありて小き近思錄等れ諸書と
まひてこれよくいふなり人の微かなる情
一、又公をみても用よりはよくいふなりよく陽

明日ハ文武の徳デクなる名將メイショウなりと有りされども連年
 凶暴キョウボウと受用ジュウヨウする人を見ゆることありれ故めく
 氣質キシツ変化の事とも見えしこと

返書略批者とせし世間ぬへ公その者とリと承以初学の
 時公のそとるひとてううううのうううう事よひとて公の
 公の目とてううううの道とてううの道とてううの道とて
 ううううの道とて名と付くううううの漢儒の訓
 話ありとてれんうう宋朝は理とてううううの宋朝の
 明とてうううう明朝は心法とてうう明朝の端あり
 ううううの端ありとて入徳の受用とてううううの端
 ありとてううううの端ありとて徳へ古人よ及うううの
 後生
 の者公の公の元情ありとて文とて力ありとて徳へ先賢未

免れ解とぬくは古人志ん情るこ有徳とそうし
 勿^{モウ}種^{シュ}るこ義なり一の不^フ我^ガとゆひ一の不^フ事^ジとあり
 こ天下と得るもせざる所い来み王よりあくる世^セ
 世俗の習^{ナリヒ}いさやねまほしくもび一事天地神明に
 しとも古人は恥へうとも外のみすい我さうし我身乃
 拙さとぬき必死貴族このこ道とわよと思ふ人心中
 の微^ヒ間前よひふまゑなりてなること然すとけむおも
 とを無き人平人よとりつらうをも省きのまゝ程^{ハジメ}
 来^キた乃よめひもあらうくはとも之^{カチ}如^{ヨク}の志^シうつりある
 故と存^{サツ}い^{ニミヤ}術^{ジュツ}の外よじよまゐりてふいづかんと
 不明故ともわろくの陽明志流のそ者としてよく利
 ううくものちゆといふともそ^{ソコ}理^リと窮^{クワム}ことい見^ミ解^ゲ多

一 来書略文王と野をわたりてふひまうゝ又征伐と
ゆゑにふりてふひまうゝ

返書略日辛王代の征夷將軍といふ人あり西國征
侯のほかに興國とむすむる小侯の中國とむすむ
とむすむる遷をむすむる時むすむる周一國の諸侯あり
あり西伯の討王の忠ありとむすむるひまうゝ天
下れ諸侯討王の忠ありとむすむる人三分二あり
其二々皆西伯の忠ありは時西伯軍とむすむる討と
むすむる人ときむすむる西伯の忠あり西伯の討王に
其二の忠ありとむすむる人半れむすむる諸侯とむすむ
る来朝しむすむる討王の忠あり西伯の忠あり人の忠
ありとむすむる人半れむすむる人半れむすむる来朝
する諸侯もむすむる人半れむすむる人半れむすむる
その討王初て西伯の功と感しむすむる人半れむすむる
の代乃来よ文武中夏むすむる人半れむすむる人半れ
来よとむすむる人半れむすむる人半れむすむる人半れ
一で征伐ありむすむる人半れむすむる人半れむすむる
秋と征伐ありむすむる人半れむすむる人半れむすむる
くは征伐ありむすむる人半れむすむる人半れむすむる
一 来書略不章めして壮年の時文王の年己より
ふすふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
くは朝の道をきて夕は死むるの一語と終ひり

一 来書略物として経義と云いともむ法という受用可
はいや

返書略聖経賢傳道理セイヤイセンモ一くいへと誰うとも同

一 事よいかうに理と論一説と云いひて然るるを
心のあられぬをうらやむよむ法と受用と云ふ
人をもん情をも伏藏フツサウうらやむけはたは功なりけり
くは有徳の人あるは其他よりして人徳多き来れ
よのよては徳ハ人のよかきと云ふよあつて一人天理
となし人欲と云ふなり人欲と云ふ天理と云ふ事
二更に善と云ふより大なるはうけい善といふ事別な事
と云ふことあるとよあつて是人徳日用のなれと云ふハ
これ善なり君の義理と云ふは人徳に在りて主と
をむよる義理と云ふことと云ふ法と受用と云ふと
思ふ人あるとも其人うらの金体ハ人の位は居る
ふううと云ふ位を位と云ふ事あるもの古今は同じ
と云ふ得ては人徳の法聖賢の書と見ゆひ人をも
あつては皆入徳の功と云ふは一法ハ大なる中庸
論語よりくはうけいとも云ふものこれに核して儒
と云ふ位と云ふ事よむ法と受用と云ふ人も人
位と云ふことあると云ふは一生の訓誥をも終る
りのりり又その見も大なる精くはあつて大方の九情を
らるものよしいをそれなりと見解の成徳と云ふ人
と云ふ事なり大方の水のあつていふこと核と云ふ
みうと云ふも真のありは又一事の人ありて付欲

多くむとらうかして小理の情と信しあふよふとく
 ひととくうとれとあり聰明の人小情小信とてくわ成
 の功をけしん理のよといふく徳とけむといは
 ともこれ様よんといふはゆきよきなりけ人を昨日の
 我といふはさるあへーもいふもも學流とてさる人ふ
 ふいふりてさる蓋なく人ふあふゆりあふちうくつりな
 ぶさるさる作ふいふくさるあふ人の非とてさるさる
 とゆわくさるさるいふく非とてさるさるさるさるさる
 一 來書略 戊戌年伯夷叔齊の是非と論さる古今多
 くいふも其精義をいふくといふ

一 來書略 古れ事ハ不なはる今 戊戌年伯夷叔齊の是
 非と論さる伯夷はさるいふて首陽山に入りて餓死も
 不及いふ道と明辨とて聰明のさるさるさるさる
 くいふ聖賢さるさるいふはさるさるさるさるさるさる
 をいふさるいふをいふさるさるさるさるさるさるさる
 あさるさる事さるさるいふさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるいふ文王と伯夷はさるさるさるさるさる
 さるさるいふ文王もさるのれとて待たひいといふさる
 さるさるいふ

一 來書略 儒者と佛とて試せく論せさるさる同
 なるさるさるいふのさるさるさるさるさるさるさる
 一 來書略 法外や儒道佛の論さるいふさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 一 來書略 道の勝がさるさるいふ聖人の道とて論さるさるさる

ゆこうよふもこしくハ痛哉と云ふことして分明なりと也
孝經カウキヤウの如く教ふる故にこころみ知来ハ天地の間ハ人の
あつハ人の腹中フクナウハ此のあつこころ天地百物ハ人より生
とこころ有形ユウサイのもの人より重きカウことあり其人の道れお
よ何事ハのあつこころ也

一乘書略七書の中聖賢の端と云ふ作し少く多くを
功利の徒^{トナリ}言^{コトハ}ていく何れも用ゆべくはなり
返書略仁義の公あり仁義を名ありて後世へくは人
軍を正^{セイ}扶^フとなく威^{イキ}とほく敵^{テキ}と制^{セイ}し小勝^{ショウ}奇兵^{キヘイ}と
用ひたりは紙好て敵となくさむる是れ正と奇と用
おわりの奇も正と成りたり吾ハ義ありて敵ハ不義也
吾ハ善ありて敵ハ不善なり善人はよく上軍士ハ皆
義士なり不善人はよく下士卒ハ皆賊なり悪人のた
めハ善人とともにあつて謀^{マカサテ}とほく敵とわじり
味方^{ミカタ}ともにあつて敵とともするハ明將^{メイシャウ}の常なり
七書といふ其明將の行ひ一致といふものなり
又ハ軍才氣とせ付けられ者の道といふものなり
と成らう軍功とまゝなるその言をわり其軍才^{グンサイ}才^{サイ}君
みよ然らば和道とも主實^{ジュツ}天地各列^{カク}なりとせば
一乗書略伴^{バン}となく終に五剛^{ゴウ}のすなりや己^ミハ明德を
明らふと終るとせうとも海よりいふむ如きはね能
事^{コト}なして居^イゆる三教一致^{サンケウ}とりて罪^{ツミ}あるや
返書略一致^{イチ}ともなることものと一致し虚言可^{コト}戸換と
なり其上一致ハ事^{コト}ハ端也同一佛道中こそある小

各の異見と立て相争ひに別は別はあつてあつても
 されといつてもと雖も其の佛者も天地のみなり我も
 天地をみたり皆兄弟少くはくも或るみよ所の異り
 りり或る世よりいふとれつていふよりてさましくさくは
 儒といひれと云見と云の事いふとあひの是れと何
 かの見と云をさくも兄弟なる親とくくりめくさ
 へむくくさくさくもさくはくは職人のみを兄弟なり
 て一人を夫の根なりとも一人の具足なりともさくく
 一夫とさくいふ甲とさくいふの事わく東西各別の
 他人なりやの兄弟の親しとの見時ハ職人各別よと
 くる事いふさくくいふさくさくは放ちと可なりとも食
 物も兄弟各別なりさくいふは事なり味とく
 ひいとも各別の物なり二致なりさくいふは味とく
 ちくめて我ハ我人なりとくは聖賢も御代なり
 て天下一同は徳なりさくいふは徳なりとくは徳なり
 時の許由なり光武ハ嚴子陵なり孔子ハ原壤なり
 聖人の道と云ふは徳なりとて天竺とて鳥羽なりとて海廣
 しとて魚のともさくいふはさくいふは

一 来書略拙者文筆に少くはくは徳なりとて儒者
 といふは徳なりとて徳なりとて徳なりとて徳なり
 返書略今時儒者といふは徳なりとて徳なりとて徳なり
 とさくいふ道と云ふ人なりとて徳なりとて徳なり
 大帝夏商の代なりとて徳なりとて徳なりとて徳なり
 よかり郷里よといふは徳なりとて徳なりとて徳なり

事なり史儒は文とまて通儒と知り道と行ひ徳一
入つてみ等の人偏なり故に今の史儒は其職ひさく
ふくなくとも事法徳の中よといふ第一重
一書文そのは愚問や他のもよふりかき一天の
弊よりおのこゝ文藝とひく縁と受らるゝや河の害
つわじの徳と知る人念文才あつ者貪とくめれ
は人と束めい史儒よく事とあへ一晋の陶淵明
酒よくまじりとりり市徳の類とれとり其職
を身とまふおりのいふや一けいなりを職とくも男
と金りる者徳ふところ故なり今人徳ありて儒
ふよういふとみとて言ひつり其月金りるとりて道と
わくといふ故にをいふや一くとりくも一
も一とわくつゝ徳とぬく儒とよくれ故に今の人
久しとわくつゝと不知とて伝道家とていふや
儒ととも一流の通者なりとせりつゝ大樹諸侯卿士
士庶人等の人と道とていふ儒と一人の藝者
なり世人馬の藝者とて武篇といふ武士と
人々武篇をたうとていふや一漢代より今
ころんみ等の人の偏の介は別は通者ありとて異端
とていふ儒と伝といふは異端なり夫れ周官はかき
これ儒のやと一人を役とせりて異端の徳とま
ぬとせり事甚とていふ
一東書略松と同役は利党や作法とて者通より志
たう故何なりん強合とていふと氣のくくはな

主人と袖を以てはるるを以て其の衣服の裁給と
 爲るにや中國の人と甲冑とを以て作は戎狄の形
 似に裁給たり故に右と云ふはそれより可有とな
 る日本れより其の袖と以て別より云ふは付
 是ハ矢をせんとするものなり是より用ひるもの
 は近世と改炮とを以て袖のより蓋とを以て故に
 次第小
 不用に異國の甲冑を以て本よりするものなり也

と後世を多く思ふは決然の憂わむに死すまで
一也も若き力を尽して事あることと稱ふは愚慮と
から事よ十死一生とあて運運は名をとく振ふ
思ひぬなりたる勢と見くはこれを知りておる言
つ其上天下の人妻を留めなきこととありたたと
いつか令を令しよも名をまひひくと一人の小知
候のためふさぐ人多く先人の名をさそあけり君
ぞ利用とせん事心よあらうよく仁人國天下
とゆても好さるるなり兵書ふえん兵ハ過ぐその
城とせめて罪なき人を殺し人を殺し其國邦
とより貨財と利とる盗なりといへり悪人ありて此
とへくはより高きせんと思ふは愚慮なり其は
貪慾盛衰振ふるものなり如此のものはあり其は
ふいふ心ゆかり具とせん人もなく武道武藝もな
らひあくる屋々のみならずは役利のためはよくと好む
いふかゝる運う氣は何事かと称ふ人は同なるこ
ろへくの武士といふはあつて勇ありて武道武藝
れらうけぬく何事ありてもはまつてのみなる様
たりまして主君と人切と思ひなり自分の盡く
他にく天下の老若と不役はなり仁を心より世中
に無事と好む其とは不意なるおそれ力と忘
て家とともて決して人なりとてさとお軍功と多
人わく一文不通れ無學といふとも文武二道なる
へ一世る小文藝とあり武藝とありと者も文武二

道といふは極よわいこれ文武は二徳といふなり
 といふゆゑに仁勇は徳なり二道といふは
 一東書略 奇勳を武士にふあはれ頼朝卿の次は
 ともてあそひくむいれ其次に奇と好むたは
 惣して武家の弓馬よとて奇勳とてあそ
 ぶをありといふことありあそむといふや

東書略 奇道は我國の風俗なす少くありとも心付た
 こと事ゆゑにさきといふ一の奇人ばかりての
 は奇といふことありといふことあり
 れ道は文武わたり文武は徳と藝との本末あり文の徳
 は仁なり武の徳は義なり仁義は本とて後弓馬書
 藝は末なり詩平八のいふ弓馬書藝は末なり
 文の徳は仁なり武の徳は義なり仁義は本とて後弓馬書
 藝は末なり詩平八のいふ弓馬書藝は末なり
 みらひといふ氏と授けたる其残りといふ月花ふも野
 からい奇といふことありわきとていふたも其
 たるくは頼朝卿の末のたより一奇勳は罪にあはれ
 中の不立なりともいふ武道はいけは過て
 多るあそ和漢をふあはれいふ武道の罪と
 可なりや中といふことあり論せらるるあそひ
 い頼朝親王門にありともいふ武士のやうは鷹
 歩といふなりや中といふことあり
 中といふことあり門内よりいふことあり
 中といふことあり門内よりいふことあり
 中といふことあり門内よりいふことあり
 中といふことあり門内よりいふことあり

は清養生^{きんぎ}はあめあつゝふうへーあめあつゝあそひ
専^{せん}としてなつたあつゝ事あつゝ

一 来書略^{りやく}勇^{ゆう}の沈^{しん}勇^{ゆう}がうととぬいさふと刀をうね
にうらみふりうとぬいさふとぬいさふと刀をうね
強弱^{きやうじやく}ぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
一人あつゝ大つゝ思^{おも}ひの及^{およ}ぶたつゝあつゝぬい

返書略^{へんしりやく}まてに刀をうねととぬいさふと刀をうね
見^みゆらうぬいじうへ今れ格^{かく}はぬいさふとぬいさふと刀をうね
まならぬとぬいさふとぬいさふと刀をうね
ぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
見^み習^{しゆ}ぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね

く石のぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね

まてにぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
てい見^みゆらうぬいじうへ今れ格^{かく}はぬいさふとぬいさふと刀をうね
はかく空^{くう}れぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
つゝぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
まてにぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
武士^{ぶし}あつゝ若^{わか}いぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
ぬいさふとぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
まてにぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
てい武^ぶの文^{ぶん}をぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
まてにぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
ぬいさふとぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね
まてにぬいさふとぬいさふとぬいさふと刀をうね

ら道はより貴方の勇氣ハハ胸抱乃とやと換はるる
とやとに決めく御さし可成ぬ其と勇力にやとるも
乃ハ換多く其言と有る人そ乃言と失い能は
給ふも功と失ふも古人忠格言なり勇とては
と人のめくしてやとの手抱ありてとめく人そい
やハ叔何事そ成りてと成なるせんといふと
色とれは抱ありてと身なりやとれめのとやと
夢と歌多くてやとれめくいじり三十年甲冑と
枕と山野と家としてなると名あるものとありて
道は事功とある者ありと若くそとぐくおあくと
老人と情しきとを道は抱とくいふと人の言
とれ人のめくしての抱もれりわると時と
武篇乃抱意ハ愛敬ありととり何事も抱といふ
い道は道といふ

一東書略いふの昔と芳なり死ハ遺物者ハ昔と安
もろかり程者乃親の妻とわくうたふ道程ありと
うの死生とありなりとむとく中とめくみて
死と好むも可なりや
返書略芳安の義二つはわくと晝夜とひく見ゆ
一夜といひく安く晝いなるそと芳と志とてと夜
れやとと抱とねとて晝乃芳とねい晝の芳極り
ぬと一夜乃休とあり死時安い時なりとやと遺物と
乃がとむなり私意と立て好意とく人程者いん

返書略 兩儀の肉めく心位に淺源ありといふも至聖子
らとみまといふも心解めく心位自然なるも相
といやめくあへし柳みより花いれくさきくは物乃
輕重を將守めて我わづらき我ぞく金銀
と云ふと同一をみるといふも見解を以て作する
ものなり云物自然の心めく見ゆるは我と金銀い
らんと世間の人心を以て世と云ふるを養物なる
いふをわづらき我の心めく人の使を力の一
う人より力代を將守命を亡くはるるをいふ
使ある事ありたり人使を悦ひ取く我物を
へし我の心めく人使を以て悦ひ取く人使
たりといふ者も心解めく心位自然なるも相
ありといふ天性の仁愛なりと云ふも心位自然なるも
相異なりといふも其おけはるる世俗の物欲のち
りといふも心解めく心位自然なるも相
見ざるは道なるなりと云ふも其心位自然なるも
我の心は正道なりと云ふも一道の行ひなるなり
びへ

一 來書略 陽氣は我意ある志の軍陣はてはなりぬ
然れ又利害ありと云ふ者も武篇純なりと云ふ強弱
相あるなりと云ふや

返書略 加藤大馬助れの心位はなりぬ武篇
は目利ありなり理直なりと云ふ武篇なりと云ふ
一と云ふ又我の景虎の心位はなりぬ武篇なりと云ふ

武士の常なり百姓耕作は同一武士は平生活法
 義理正しくを以て武藝は之を以て
 以て知所とあはれむる人志願とて人若將の下
 無事なり力をもて人敗走は武藝とて者とは一め
 するへは陽氣は我意あるものとして臆病から生付は
 ていかくも習めく何んか其力よへそとて
 しかるえては事あるに直力な者より氣をさけぬ
 といふ事なり事故は思はれ其時よりいけぬ事あり
 て行あるは後見若くは又か別あるは利害ははるかに
 事ふ義理とていけぬ故は自然に義理とていけぬ
 臆病とては陽氣とて陽とて一陽極く陰とてする
 あり平生陽氣なるは陣中より腹立ちぬことあり
 ありとありしり大快絶叫音にてうらやま陽氣は皆けと
 らる事と臆病の中はありては勇氣のありかきとな
 けしありしり外事我意はこれなりとてありとも同
 なる龍といふものありて是より外陽氣の
 至極を得る氣のありて是より平生は陰の水中より
 ありて是より是より真実な武勇のありとありて
 くれ養ふくはなりあり
 一本書略倭約なり事なり人用たりおひともあり
 くる者ありて事なり思ひなうともやむくありて
 として日くふかきありてあり
 返書略倭約と各書と志願と者なりとて人なりは
 ては倭約は我身は各書なりとて人なりは各書は我身

は欲ぬくもくふはとこを以て用ひ物とせしめど
くくをわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
へとて用ひ物やうは見えぬと其用下い分我力
れ欲のた先榮耀のをめふとい著て用ひ物とせしむ人
めとほとこをわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
げりる人の物と惜てくさの商人を物と取く價とや
らに畢竟穿踏は月一と理とあて著て用ひ物とせしむ
括よりい食約といて各番とわい又各番はる若れ後
約れ名とくをわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと

一東書略同志中世奉つてむむ人必府以流俗はわ
けて然るはわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
へといふとすくもてとてわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
てとあふくくや

聖書略い人のくく十人二とて思さるはわき人な
け人な疵なり其疵ある故は商人はめやの商人は其疵
見えぬとてわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
かめく疵といひてわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
てわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
疵なけい人のあふくく十人二とて思さるはわき人な
かめく疵といひてわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
てわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
君子の義めて疵はわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと
とわき人なやうくかきこひたも分は著いあくと

来書略我亦回より江西に遺信とありて余餘多しと
貴老師より内一人へおなほ

返書略拙者より弟子より一々一人をなくし師は成る
藝としてがた故ては醫者の醫業とありて一せ
の力とありて物より博學とありて物よりと産業
として一せとありて扱はれ家々の其宗門とつてある
と持ておするといつて師弟は契約ありて不討する
は拙者の謙学より一人は文字讀めても一人は書きて
ふゆふと書けるなりとありて一せとありて教ぬり
になり人き事とありて一せとありて文武の徳は志ありて聖
の心法とありて一せとありて自己の徳の功をあらわされ
たりとありて徳とありて道と達して門人ありて一人は
れ徳ありて人の志は拙者よりありてありてありて其一人とあり
うありて心とありて心法とありて一せとありてありてありて
いありてする志は乃に金陵よりありて義實なりとありて一せとあり
てとありて多事なり功は勝りてありてありてありてありて
は武士に應じり馬の藝とありて一せとありてありてありて
へ学く功なりとありてありてありてありてありてありてありて
士に相多くありてありてありてありてありてありてありてありて
を原國のため天下のため武士道のためなることありてありて
る人といふことありてありてありてありてありてありてありてありて
て志するといふことありて醫者出家なりとありてありてありてありて
拙者よりなくいふことありてありてありてありてありてありてありてありて

ろしひありなり我も道德の議論とあつてあつて
いふ友を又くればあつて心友なり故にあつては貴族を
忘るゝるは金く作と不存弟子とてをなくは我も
学問はさる心術なり常々武士とて奉ふといふ若し
故にそのおのゝく人々はあつては依へる一軍人
ふて学問のこゝ学問を若とて奉ふといふはあつて
もあつてやうくは似合ふ武士は役儀と執子なるあ
つて其の上はあつてかひは今時歴くは武士を奉ふ
らうとも同前より武藝のあつてを力に味あつては
乃ちと人あつては志の相付てはあつてはあつて
みとあつてへらつてはあつてはあつてはあつて
終とあつてはあつてはあつてはあつてはあつて
と成るあつては武藝と成るあつてはあつてはあつて
心法と等の人倫の肉と小用を力あつてはあつては
執と武士の役儀の味あつては其味はあつては人
勝るはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて
を功なるあつてはあつてはあつてはあつてはあつて
来書略道は志ある者なり時とて飲食男女乃欲
つてはあつては志の定あつてはあつてはあつては
ては行儀に志あり先生といふとてはあつてはあつて
返書略心はあつてはあつてはあつてはあつてはあつて
アといふはあつてはあつてはあつてはあつてはあつて
儀に人々も隠微のあつてはあつてはあつてはあつて
と古師ふあつてはあつてはあつてはあつてはあつて

書簡二
とむし、礼儀いさへ知らず、大神明を徳威嚴厲が
ていすべし、あゝく、教をねして悪をなさず、神は諸でい
利欲を亡し、邪邪もかては天道よ、叶ひ親よも孝行
と君よも忠あり、あゝ時、取位は異なり、も孝天よ、直
よもろや、なる、人、云、邪、信、長、の、と、さう、あり、と、さう、り、下、
次、弟、れ、つ、さう、あり、と、可、愛、め、い、其、後、さ、に、達、する、あり
あゝと、土、民、な、い、其、神、門、内、乃、白、砂、を、ぬ、じ、あ、と、ぬ、よ、せ
さう、は、帝、光、教、と、り、を、か、う、せ、は、ひ、く、農、工、商、よ、う、い、直
ふ、可、下、よ、い、知、あ、い、世、教、と、う、て、善、く、さ、む、と、諸、あり
下、め、く、あ、い、ゆ、と、い、さ、い、は、う、あ、る、あ、い、皆、直、よ、う、り、と、を
い、ま、と、は、ら、と、教、と、い、あり、民、乃、は、あ、い、父、母、よ、の、の、い、あ、と
い、か、ら、い、あ、り、思、ひ、の、を、神、信、神、信、世、れ、と、む、し、神、聖
れ、使、あ、い、く、く、と、天、を、ひ、く、さ、い、と、あ、い、ひ、り、民、よ、ら、く、お
り、海、た、あ、い、光、舜、れ、く、あり、其、道、風、を、後、世
乃、あ、い、り、て、第、葦、の、宮、殿、の、残、り、後、よ、も、同、い、理、を
い、さ、上、神、と、あ、い、せ、は、ひ、く、さ、和、光、同、塵、乃、徳、よ、て、帝、位
乃、も、時、と、違、ひ、あ、い、の、風、俗、よ、て、誰、と、ま、い、り、も、た、道、理、を、
い、野、拙、い、あ、い、聖、神、忠、徳、と、あ、い、さ、い、も、う、り、あり、を、神
宮、は、も、神、治、世、乃、と、あ、い、も、た、方、歳、乃、後、ま、と、生、く、不、息、乃、
徳、明、う、ふ、お、り、海、て、月、月、の、照、臨、を、後、さ、う、あ、い、と、あり、て
を、又、あ、い、り、て、を、聖、作、よ、む、し、ひ、さ、う、あ、い、く、神、化、の、あ、
い、を、す、く、あ、い、は、古、れ、聖、王、の、君、師、と、さ、い、て、さ、い、い、と、い、若
あり、親、い、さ、い、い、神、あり、あ、い、聖、王、乃、と、あ、い、は、靈、山、川、の、
は、り、り、み、り、て、と、道、徳、は、觸、る、の、益、す、く、あ、い、は、あ、い、と、い、山

あくなり天を天子あそびにみだり
我國ト唐士トスニ風俗遠エリ
 士庶人も若くかゝるをみだり
我國ト唐士トスニ風俗遠エリ

己の神道の意にあらざるを井とて今も誠敬自
 然と立て心新こころあらたまり祐前すけさきより孫ひ孫とる可べく傳受でんじゆあ

思ふに多し
 成く天下平あり
 勸請なくして不討義と有
 是書我日本イラハ善クフヲ以テサレニ様子言ニ成程仁物山崎云トハ

人の教と互ふといふりて一むらゝる數くの勸請

いふ勸請をくわいするも義を盡さるべくも

ありしを原廟と作ふてなむと云ふ事なり

率令^ニハセラル^ルニハ礼^レお^ハり^テ後^ニハ靈^ニ越^スと^モ撰

とそ大なり不敬ふ事なりぬ佛家と云くは佛院に

めありとや久もじう山林はわる
伽藍はあまう

秋塔乃進八月進とむくぬまゝわすく
 傳ホウ法ウ脈シ

もてざる取あつるあり

返書略説コココフ自家の生意ジカあり境界の順逆キギダより損益シキあり
 一樂タクシムハ物と春と同一の義あり不愠ルイカラハ身ハ吾徳を
 人の不怨コトといふるも又あはれ忠臣と不忠といひかゝり直と
 不直といひ信と不信といひまづるも又あはれ流罪ルサイ禁獄キンゴク死
 刑ケイふまづるの逆も人不知の肉ニクはあり泰然タイゼンとして人とも尤
 めも天とを怨ウラみ炎暑エンショは霍乱カクランとして死するもあはれ極
 寒カンは吹雪フキはあはれあはれ又天道の陰陽人道の順逆を
 義一あり悦樂エツラクハ順也人不知ハ逆あり人生の境移りあり
 しとを順逆の二よきも次小人ハ順はあはれ小人ハ奢り逆
 ふあはれを怨ウラみ春秋と書とあはれ冬をさるる人
 とあはれあり君子ハ順はあはれ小人ハ逆はあはれ富
 貴福澤ハ春なり道あり貧賤患難ハ秋冬の義あり四
 時ハ天の徧福ありて徧福ハ人不知陰陽あり屋の南面ハ夏
 涼スズシ冬温ユルあり水面ハ夏熱アツク冬寒サムト人
 の南面ハ秋水面となる屋と並ナリはせとあはれして世みす
 むりの自然の理なり富貴福澤貧賤憂戚ウレセキ相アイともな
 ふ世の中あり誰タレとらるるもあはれとらるるもあはれ

集義和書第二終

書簡之三

返書略々^{タイキヨ}虚ハ理^リのも也^{ナリ}と云ふも一氣^キなり理ハ氣の
徳^{トク}なりと一氣^キ屈伸^{クツシユ}志^シと陰陽^{インヤウ}と云ふも陰陽^{インヤウ}ハ卦^{クハ}と云ふ

八卦六十四とありて是よりとらけり一理万殊といひ
 盡さずとて次天地万物の理を分るるに理とてことごと
 しといふ氣ハ理の形なり動静の極の時中なりと吾人の
 身よりていふは流行するものなり氣たるは氣ハ靈明
 なる本と心といふは靈明の中小仁義禮智の徳あるを性
 とし又是明とて氣中別ふありは又次多やくとて
 性中乃心なりと一塵中なる本とて又明とて

テラ 照るは明のよりく照るは本は條記あり

一 来書略カ死して後世にいのちなりといや

返書略カ死にむく心身の惟子とあり心なり一其に

あては父の衣服と思ふ心なり一其形ありあは形の心

ありは形カ死するは心の形れ心なり

一 来書略カ死するは心の形れ心なり

返書略カ死して後世にいのちなりといや

又形の死するよりなる死は後世の心は今よりし

て性理とあり一死死後とあり一死君子の心ハ今より

あは形カ死するは心の形れ心なり

返書略カ死して後世にいのちなりといや

又形の死するよりなる死は後世の心は今よりし

一 来書略カ死して後世にいのちなりといや

返書略カ死して後世にいのちなりといや

又形の死するよりなる死は後世の心は今よりし

て性理とあり一死死後とあり一死君子の心ハ今より

あは形カ死するは心の形れ心なり

返書略カ死して後世にいのちなりといや

又形の死するよりなる死は後世の心は今よりし

て性理とあり一死死後とあり一死君子の心ハ今より

あは形カ死するは心の形れ心なり

返書略カ死して後世にいのちなりといや

又形の死するよりなる死は後世の心は今よりし

て性理とあり一死死後とあり一死君子の心ハ今より

あは形カ死するは心の形れ心なり

禍福を我々平生の念点ハ速速して去るべし
 たり先祖の造化鬼神工を助められ勢いありき
 さまよひ子孫ありきときは念の先祖の造化
 成好み我々子孫ありきとき其運命の勢いいま
 たさきに身頭痛の病あり人々玉用ハ智恵氣と
 感^{カン}を我々ありきときより下はくさぬのありき
 として去るべし

旧交よわしし書よ曰故者よ其故た然とて不変や
 とう久しき音同を絶つるの無情は似たり傳聞
 まを道德の勅ツキよすこと終るとたといひて愚グやう
 と終ると思ひ見たるをわたり終るるを
 浅きなりとて道德を好む者すて浅きなりを信
 見北よ乃て深きと思ふを不肖なりとてたゞの
 とうり終るをわたりたらし故者れ至情と思ひ終るに
 我思の過越さう終るるをさうとてさうすま
 へ思ふすて道德を尊信し終るるをさうにたれと
 々々とはなす何ぞ人よりて道の信不信あはん聖
 人の門はあやふく天下の聖賢とて人々を愚
 不惑なりとも吾聖賢とていふことひたひたを
 あり已り定見いひとて終るるをたれ人よりて信
 とう信とおう終るるを道とみれば人よあは
 来書略せば判官見員とていひに別るるをさ
 返書略るるにこれあり其功はなりと書き
 くれとおほき者とめく富貴にして驕ツり者よ

をこよは居て下とめくまふ者をやむ判官義經
と其く道と志く次勇親よりして失わりと
とて大功ありて貴きと人情のあまじむたり
頼朝卿福ありて天下とこれととて不仁あり
寛宥れ心あり人情のあまじむ頼朝判官よ
るく次驕ハ天道ハ地ハの亡次ハ人道のあまじ
からし謙ハ天道のまじ地ハのあまじ人ハのあまじ
一素書略我れ在は地と神の使者なりとて
とてあまじとせしめく亂れきたるの世に其上害
をあたふとて其通とていふとんやゆりいふ
分別定くとい

逆書略神慮よとていふとて地と改めくとい神と
形なりとて時にあつて何なりとて色のつとていふ
給ひ地と使者と定くまふとて地ハ叢よりすじ
ものなき人居よはく次水道とていふ神明ハ地と
戒給ふとて地のもじ深草ハ用心をなく所て害に
あまじ人の此なり人のすじをまふとて地のまじハ地
張とてくまふ叢よりやと行ふとてハ少くは
可也かき愚民疑ひあつハ地ととて神慮
とていふといふといふ新訟ハはき道理ありて
色りまのまふといふとて二交とて地同心なり
神の清同心を成すて交交を清くとていふ
かつたをくいかあ次清同心あり其かかれ
たぐいの神慮よ叶はふとて神慮とて人の

よとゆへ會談のあはれ様なりける多きい

一 来書略 無字行政如無燈夜行といふるは貴老
學者の政を心得るべきことの難い又其面目ある人、
其体面ある人ありと承るは心得るべきい

返書略 政のありある人となすといふ其人は學あり
國天下平治に任ずるありてこそなるべきは、
素より一失なくよく行ひよくするといふは、
あるべき所をなすはたがたなり故ありといふは、
おと見ゆること自他の人々をいかに又、
おと見ゆること自他の人々の政をすは、
くつあること自他の人々の政をすは、
い時此位の至者といふるは、
い時此位の至者といふるは、

分てあつてはまさり可申の軍法とて、
知あはれ大なるものなり勝負の利は、
逢て勝つては、
是大将と敵とを分て、
軍法といふは、
成るべきことと、
明白なりけること

一 来書略 経書といふは、
よいくは、
にいつ老学といふは、
返書略 聖賢と直と、

天道龍馬と命を以て其志を助を以てり書
敬を以てり之を以て伏羲氏に於て物欲を以て情
性に合はせし故に人は病疾あり後世有欲多事の
さうもあつてはれり病あり醫家の術耕作
を改たしてあつて天道靈草義種と降して
神農氏の業を助を以てり是皆神聖廣大れ其の
緒餘なり時よりして教を以てり伏羲神農は
れども周公孔子は夏の一其模様はかりあり
とも同し天理の神化なり其理より易は無
乃理なり孔子のいふは伏羲義といふ是
のいふは理なりはたなる理なり
原書略釈にえいといふ聖人は是も時より感
とされ法なり

返書略神聖中行の理ありは中國は来り
孔子はさういふは聖人となりは分量あり仁心
廣く厚きはありは勇氣氣質は優りて是
あり其生國はよく是を愚癡はたは欲ありて
不仁なり極弊の國なりは死せし肉を惡に
いふなり持ありは切てはるなり仁心源は
是を制して方とては教を戒とては多し
りなり日本は仁國なりは國は生きたるは佛法
を以てはるの感服ありは又釋迦
磨は今ありて今れ佛者なりと見せし何者
も心はわたりては佛祖の流とてはたは教

仁とありては天下の財おのおのほふこと天下れあ
 りて清く濁すきいわさるゝを其より天下の主
 を才一は多く思ひめざらん賢才一人のよくなくん
 竟争もこれと憂へんと欲する是以同一に聖人
 なまじりし孔子人の所なきことを明かにして達
 志強ひ竟争ハ人代君あるを戒めて下
 ノ賢才多きは病なり室ハ貧ニ生レ謙ハ
 明ナリ此理也故我々自慢したまうこと
 と天下の才知られつものやかく空として
 謙退せよといふ善政もおろ義風も後世に
 おろるべからず下國を知り天下の知と不用時を
 おのむ体ハ虚灵なるの理あり次其恥あり
 されども恥心亡ひ不善行なはざるものなり
 天地の大たり可成造化一物に比ちた塵無
 一物の權かりとも同ハ多数たるものと辨（は）ち
 ふ味なくして人をも味とあらはし身ハ必しも
 てみ音とあり心鏡空にして万事に在るとあり
 おもわれ無より生レん貪ハ世俗の福神といふ
 俗語ハまことに人心の病なり
 吾書略する所の竟争の民色貪乏にもぬきけりや
 返書略する所の安んずることこそぞ大く人に
 分ど安んじて領たもれば身を常として心に樂みの竟争
 ノ良ハ康寧ハ福あれば此理のいむ一因又わ
 こ毎日少くも礼祥一法福と知り其事

笑て曰軒よ草をきり床よは稿の席とて身よ
 わくまめのこととて雜穀と食とす又は田圃に勞
 婦ハ食事をいとゆるし餘力あきて紡績織経す
 まよりを母より且よりを妻よりよしと清福とい
 く誰り福あるむ又曰是皆賤男賤女なり我
 身よりをのちぶまよきよきわく次よりを賤の子にま
 賤の家よ居賤の名とて一賤の食と食一賤の業
 とてたむは天理の常也好事をなしたるは又次思
 ひをもね幸ハ其強よわく次身は病なり家は災
 達者よりて暇たると清福はわく次也と人よりを
 わり流水ハ常に生てたまりあるは福なく死ぬ柱ハ
 虫ハ船の柄よ虫より次俗樂のたむ憂又とて
 あつとより極むこととのをる一はとて身ハ義味
 あきこと彼田吏の簞飯よとて泥く暖かき衣
 にもことと寒きこととて賤のぬきにとそれとて
 病苦よとて或ハ死とて思ふ福なるは人
 動物からして天子より下士民よとて無逸とて
 けこととて人々のたむとて許由ハ賢人なり其身ハ
 農夫なりて彼は同一堯の天下と穉志とて身と洗ひ
 一其はのめり四海の富貴よとてたり徳たむ
 富貴ハ浮つた雲なりとて天爵ハ万歳は又人い
 わり桀紂ハ中國の主なりとて四海のさ位なり其富
 天地の同はあらば顔子ハ每位を宮にりて衣
 食をえんたりとて三十餘より天年かたり

ありて人生は福起よりうけざるあり。其まこと色あに
 人ありて集結は似たりといへば腹立せり。さうして
 天子たり富四海の内をたして上りて下りて撫の人を似た
 れとみて腹立せざるものなく。悪と恥善と好むの良心
 わきまをかりて又顔子に似たりといへば中心悩むといへば
 しらざるまて謙退と天子諸侯の富貴やといへば
 其言をよにうけに人爵ハ其せいりありて
 乃ち爵のあらう。天爵れといへばさういふまに
 うけし人爵より今をあらうと願ふるう。次天爵は
 分數なり。心の位たるはふせくものなり。心のあつひ
 ら大尊ものなり。鬼は不安。吾人より顔子
 のまといへばと願ふる。集結は造らんとす

なまを仕へるやしくるありの相番中たさくむさ
文にいかゞ述懐い其上は親類を音中折々の旅
やさくありいして其を不毛いといふ可人乃
物よりしてやうな旅は必しありて親類を音
中寄合て町人の物と取て飲食するめて親類を
音中安き中か旅のゆきやをいひてをさ
有まゝさうする各の上よりて客旅ありハ旅旅
一や方こそさくい述言もくし其町の常任
信して寄合いとなり素たとい可仕る客有
旅するに用いれ我々の流よせざるくして親類を
音中用ありてはれ物語なくく時をておわ
きい平生の素旅と旅旅信して寄合時を素
旅旅水の介ちを仕る奇特なる親類を音のありや
そく心おれ者も感一ドとありい

来書書物者せうき御ねえのそくはあゝそく
い世間の習はるゝ氣随我りいそく道徳や
次徳藝し根に不入りて又の罪やがく徳同志の罪
い利あり其身の行記ありまゝの奢りい
不可用といひ仕るゝいんや

返書書物一朝一夕たなありはれ最後の年外思ふ
よていふい息の罪よりい思て又と素とは
心根に仁ありて素ハ嚴たなりい人ハ水災の二り
ありい目色ありい水災の仁はた大なる事な
なりい水災ハ嚴たなりい水災ハ仁はた大なる事な

故よ心と大に逆付て死するをたなくい水に柔なる物故
 よくい心やましく思ひ逆付て溺死するをたなくい柔なる
 人の病に柔和なる多しよてい柔和なるある人のほむる
 事のもてふに極よし其門は不孝子いて其國は
 不忠臣とい處たりと親に無禮といひてしもも長
 色怨むる物よていさくかーのたさをあつてむ
 天よりと降るに極よらんとい柔和なる親をた
 罪ありてしも色長もうと見ドといふ程たとけ恩
 ありてい親に柔和なり其子にあらひあらざる
 柔和なる人の中風俗ありてそのよい水の仁に母に
 ことく大に仁と父のあつて母に母にあらてはよ
 息ありて成程い今にいとていせしむてい
 いよく戻ていといふとあるとい國に政をたて
 色を治めんとたれ其何の下母は眾人おほく人
 多く死するをそのよい父を子たさへい福柔和
 色子にほしとて親は神武の徳ありて其後や
 水に大剛の事とていて處をささる母はとて本そは
 たりい立やてやううたな事其大に賊ありてい
 後今よりと大の仁に成ありてい母をたてにあら
 徳と後世よるい
 東書略雷い何なりおらいつらんを罪計いで誰をた
 るいむとねい

返書略
雷勢ライセイと我々を者ハ惡氣アクキと惡人となりて

悪人ありて悪人の位と成るるは海といわれ
 ぬよ。雷が八物の留滞と通るるあたりは雷とすて
 ら乳血流行キチキチ一和事の災と一業と服利とこれより
 心成りたるものはいま一から一のはやわらうとあ
 りやたへ盗賊いふあれあは業なりとわが一は番
 とわらうるの常人のためは收りいさるる盗賊と
 其いふと聞て肝とをいふ平生は悪人
 ぬは雷とすてたやうとすてい

一東書略聖人よるなりと中一其孔聖周公と
 る此の語あり両極の間はあつるものあり

返す書略も世俗ははるるなり是なりわ
 と聖人の心は正思あり前云あり周云と後見
 ふふふ思たり両極の間はあつるものあり
 今日若くといふ聖人は同一なるものあり
 ちふれりの常の産たをさしき常たありと盗とせ
 うれの心は正なるなりと後見同せとす
 細りうると其義と精く智来たるなりと盗と
 盗とするものなりと後見同の二聖人と同
 一心思をなくるなり一致なりとや昔より
 おと格との功なりと盗とすていなりと
 と思ふてせざるなりと心なりと盗と
 あつた心なりと念念なりと盗と
 あつた心なりと又さうなりと盗と
 盗と一常にさうなりと盗と

大なり其類は觸たるものなり車にあり氣充て
通たると云ふは又その理なりとなり

一 来書略人の身は心中にあるは血水の中にありは
然るより身生きたる身成ると成ると云ふは又車成
けり此者此車を作ての理なり一物なり人の天地
の中にありは人の腹中に心はありはと作らる
は心は心なり一腹中は一偏は云ふなり
一 来書略天地人を造りて人なりと云ふは又其天の作
は天地の理なりと云ふは人の性命なりと云ふは又
天地をへる大なりと云ふは又天地の徳神の
舎なりと云ふは人の心は天地の徳神の
腹中にありと云ふは又人心は人の心なりと云ふ
なりと云ふは又人心は人の心なりと云ふなり

一 来書略略の一念と云ふは又其心の心持と云ふなり
するなりと云ふは又其心の心持と云ふなり

返す略細く説くは又其心の心持と云ふなり
是も造化と云ふは又其心の心持と云ふなり
一 来書略と云ふは又其心の心持と云ふなり
可なりと云ふは又其心の心持と云ふなり
様の事成はると云ふは又其心の心持と云ふなり
昼一日と云ふは又其心の心持と云ふなり
なりと云ふは又其心の心持と云ふなり
とは又其心の心持と云ふなり
りなりと云ふは又其心の心持と云ふなり

い月さあぐと死に候てこて寝い何のん色なく作
生死を終身の晝夜ありて吾輩は今日れ生死
ありて生死の理も吾輩と只さあぐと常は明ふ
いふて終終とくも吾輩は新はさて火滅さる
うさぐ寝あはる心く寝い如く何の思念を
なく只明白なる心くさるにい

一 吾輩略々此れ道を通て知やいして生涯の心
もさあぐ鬼神の境界と可成い也

返書略々生て五倫れ道あり者ハ死て五行ハ配と中
死をいさぐいさぐハ明ハ五倫ありと幽ハ五行あり
明を造物者と交ありと幽も造物者と交あり生ハ
けん心ありと死ハけん心あり人の心ハ心とはさる
明白かりやい

一 来書略々大森の故事とのいさあぐと吾輩は書り
異なりといふとさるさるいさあぐ

返書略々吾輩は諸君と交はるは故といは吾輩の
諸君ハ中ノ屋敷とてはさるさるいさあぐと色は道理や
歸たりと道德と衆明とさるいさあぐものからいふ質
素れ時かりとて天子の二女とさるいさあぐ一昨日は
いさあぐと病とぬじ井とさるいさあぐとあぐと
銭といさあぐと賤といさあぐと殺てたはめてとく
といさあぐとさるいさあぐと類と何と義の精とに
吾輩はあぐとさるいさあぐとと色はいさあぐと
からと不若して吾輩の偏ハ若後世不心得かり歎

あつてさう同心を爲しと者ありは子孫相續を
考へた一か事ハ不若して要つて色くけりや
若の礼と不周あるハ小節なり子孫を付さくこの大偏
と立派ハ大義なりさへかり衆のなりけり情欲の又
母は子に慈を以て性余れ又母は子に慈を以て
孟子より明かり賢賤の中心ハ告てかり
衆の中心なり天子の命なり忠孝を以て
とせられざるもあつても忠孝なりとてなり
あせらるることありてさうせで同心なるとして
此も衆のためは心よりさうと一句秘めたる不法
て賢者と詔ありしあれかりと大衆ハ此の慮
慮ありと竊ハ^{ヒソカ}若れさうとあり

一東夷諸大王ハ仁なりと云ふに貨と好まざるや
とれハ此の

漢書昭帝もさうあれ諸勢なり國は二年ハ苦難な
るも八國其由はあつて後世ハ人の已つたためは貨
とあつてこれハちりして國人のためは後世に
一とて一國の一年の歳入と云ふはてことと云ふ百年
と違へ一と云ふは兵車水旱ハ用は備ハ天道の四
時を冬一付と不周あると財とかりあり三年後
て一年の餘あり九年後て三年の餘ありと起て
とて千飯ありと云ふありと云ふは後ハ入る
なりは此の如き異國の兵ありとてその國
よりて危きことあり水旱ハ運はさうと云ふ

となつて盜賊おつては國人のためは貨と好くする
 うけあめは好くあつては世の財とそくする
 乃たあらはれりてたまたま多くては飢饉の用より
 大明の懿朝よりこれ一國は三年の蓄ふるより
 故飢饉より多くて盜賊おつては兵亂は
 成てはねとそくあり國は三年の蓄ふるより國其
 必はあつてはの至言明かり又大王の名と好くする
 けあめは好くするは大王のけりあめと
 婚姻の礼を明かにし事物を授けりて男女けり不
 失三十の男はあつては婦をけりて二十の女はあつては嫁
 する様なりハ王道よりそくを重くするなり今
 王より好くするこそ大王のよきありハ王道より
 せしむるなりとかなし

一 来すも略なるは月と愛と此の道理なり
 逆書略なるは父母の命と愛と此よりなるは父母
 己とあめは月と愛と此よりなるは父母
 己今日れ月と天命から天地の父母から君の父母
 天地をさくなくは天道既今日れ月と命とて或は
 勅方なり或は勅樂なりむは月と愛と此と
 りよりある人へ貪賤なる時ハ憂者一富貴なる時
 ち速樂にけり月と愛とて愛と此よりなるは父母
 乃た心よりて千載の功よりそくする君の貪賤なる
 けり勅方一富貴なる時ハくは愛れ日月よりて
 取体下は甚く急なりて万物と遷化より人盡く

卷之四

く
有

一

来書略見

張

卷一

通書略

一内は向て外は向て此義理言語を以てしむるに
 心術のよしむるに内は向ひあはれ師友や
 學問はして音を以て心術に向ひ外は向ひた
 る學者と師友といふは志を異として心術に
 外は向ひ是を以て心傳心をも可申し書にむる義
 倫義明の時ばかりたる様よし其國家の五倫
 の交ひ世俗のまうりては學ひいふも用はたむる
 認よかりて用ひいふも我とたひあはれ是とれ
 外に向ひあはれなりといふ

一、著したはるが事ハ義理としてして若くは
うゝていふ事と見るものと其間とてはちとくハ

本心誠意ひふれよとい

一板垣信形事 信形よりへ奇特キョウテツといふと道に非ず
るをいふも此の式すして一役ヤクはこれに若く其役たは仕
て其の善惡よかまひ申しの毎スガ月あられは或る
諫め或は其身と正しき行ひをとりて時を
待みこころい

一 位牌を本へ神位と似せし仕ふる者よしいを。然る
 後とせしは体と成ぬ以同事よしいは神とて親と
 親せしは心と成ぬ以心誠とたよぬといふ、神位を同
 事とせしは時の勢ひ次第に可成ぬ

一人は對して、^{オノ}獨りあはれぬ、一休流行の仁はあらば、
我と望み人々といふて不相叶事のこゝそいふてなす

たゞしくもいふに人々を元来此處に置いて
どうもなほ一體の本然同一の親とて失ひ
て五倫たよむるにいと天の我は同一なるのこ
らとて一親と立ちて人々を同一の親とて
あつて調い不相叶はれ我はまゝなる處なり却て
好むるをい

一な養育有案ハ同一エマツていふ養育ハ静中ハ有案
有案ハ動中のな養育といふも慎獨の受用たる
天理の真樂其中に在る

一我死体も親の遺体たるに遺言とていふは
此道體の事を類とて我はくらくさにとりい
さねるも此中いふも少く穿鑿する處なく

といふは天地鬼神父母子孫生脈一貫とて人
子孫とて先祖の遺体たるにこゝの親のまゝ
わくは生脈はて死体とていふは合
するをいふ理といふは上は人々をいふは
後世の人々情をいふは死体とていふは
おとし死体とていふは已の情とていふは
よとていふはこれ若し情とていふは
いふ遺言は不及事といふ遺言は
いふは有るをいふ

一来る略古今鬼神都をいふは
此書略古今鬼神都をいふは
いふは不測の理は違ふとていふは

有^レ知^ル者ハ毎^ニ次言^ハ論^ヲ乃^ハと^ハあ^リて^ハ原^ノ
く^ハ知^ル者ハ黙^シ識^シ心^ヲ通^スと^ハく^ハ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

明治三十九年八月廿九日

四谷区左門町五丁目番地

樂天堂 佐藤了齋

藏書

